

コージェネレーションシステム及び災害対策用発電機の導入

当社センタープラントにおいて、ガスエンジンコージェネレーションシステムと灯油専焼の災害対策用発電機を2019年1月に導入しました。

コージェネレーションシステムは、発電機出力2,000kWの能力を有しており、ピーク電力対策として、省エネ法に基づく電気需要平準化時間帯（8時～22時）における買電量の削減を図ります。また、発電時の排熱を排ガスボイラ及び単効用吸収冷凍機で回収・有効利用し更なる省エネルギーを図ります。

災害対策用発電機は、発電機出力2,000kVA（1,600kW）の能力を有しており、非常時の予備電源として使用いたします。なお、更なるBCP性能向上を目指すため、コージェネレーションシステムとともに自立並列運転を行うことができるよう、現在、受変電設備更新工事に合わせ整備を行っております。

表：機器概要

	コージェネレーションシステム			災害対策用発電機
	発電設備	排ガスボイラ	単効用吸収冷凍機	
能力	発電機出力 2,000kW	発生蒸気量 0.929t/h	冷凍能力 68.7RT	発電機出力 2,000kVA (1,600kW)
燃料	都市ガス13A	—	—	灯油



写真1：コージェネレーションシステム



写真2：災害対策用発電機